

母子で駆落ち

日常から逃げるように  
温泉宿へやって来て、  
ひたすらセックスに没頭する

母と息子

ぬるいシャワーから狭い浴室内に立ちこめる湯気。

シャワーなんか真水でもいいくらいの体感温度。

夏のせいでしょうか。

いや、私の体が火照っているからです。

息子は部屋で待っています。

私がシャワールームから上がるのを、おちんちんをヒクヒクさせながら・・・。

一緒にこうして地元から遠く離れた温泉宿へ二人きりで来ることに決めたのは、無計画で急遽な決断でした。

だって、お互いこの年でこんな関係の男女の私たちが二人きりで旅行だなんて、前もって計画するのはちょっとおかしいですね。

新婚旅行や学生カップルの旅行とはわけが違います。

だけど・・・。

その分私たちのセックスは激しく燃え上がり続けています。

そう。

私たちは“肉欲”に勝てなかったのです。

人間の意志でなどどう頑張っても抗えない、不可抗力の肉欲という本能に・・・。

言うまでもなく当初はこんな関係ではありませんでしたし、こんな関係に陥ってしまうなんて露ほども思っていませんでした。

しかし、何事にもきっかけというものはあります。

私は現在34歳。

夫と共働きで息子は現在〇校1年生なのですが、私が職場でつらいこ

とがあった日のことです。

偶然にもその日、彼にも学校で多大なダメージを受けることがあったらしく、母子でありながら友人のように仲が良い私たちは、話の流れで互いに抱えた内面のつらさを吐露し合いました。

一緒に彼の部屋で話をしているうちに、互いの心の傷を舐め合うといつか癒し合うような感じになって、私自身、スーッと自分の中にあったものが溶けていくような感覚になりました。

こういうときは不思議なものです。

一旦は癒され、澄んだ心になったと思っていたのに。

それはほんの一瞬で……。

みるみる息子に対する決して持つてはいけない欲情のようなものが……。

自分でも説明つきませんでした。

こんな気持ちは持つてはいけないと自分を心の中で何度も責めていたのですが……。

だけど、全てはどんな展開になるか分かるものではありません。

なぜなら彼も私と同じような気持ちだったからです。

そしてそれが分かったのは、彼がこうやってきたから。

「ママの裸が見たい……」

あまりにストレートすぎて久しく感じたことのなかったくらい一気に胸が高揚したのを覚えています。遠回しの表現を使われるより女って嬉しいのです。

息子の気持ちを知ったこの時、“罪深い”という気持ちが欠片も自分の中に生れなかったことが不思議でたまりません。

今となれば、結局はこうなる運命だったのではないかとさえ考えてしまうのです。

私は喜んでその日の彼を受け入れてしまいました。

そして、それ以降。

踏み外してしまったレール。

壊してしまった扉。

・・・私たちのインモラルの日々が始まったのです。

若い彼の大きなペニスは、生涯の伴侶であるはずの夫がいる人妻の私の全てを奪ってしまいました。

夫の知らぬ間に・・・全部全部。何もかも。

ここまでやって来た交通手段は在来線の電車。

途中で快速や新快速などを経たこともありましたが、ほとんどが各駅停車です。

ゆっくりゆっくりと遠くの街まで電車で移動する私と息子は、まるで駆け落ちでもしたかのような感覚でした。

私たちはほとんどの時間手をつないで、汗ばむ構内でも人ごみの電車内でもずっとひっついていました。

## 体験版はここまでです